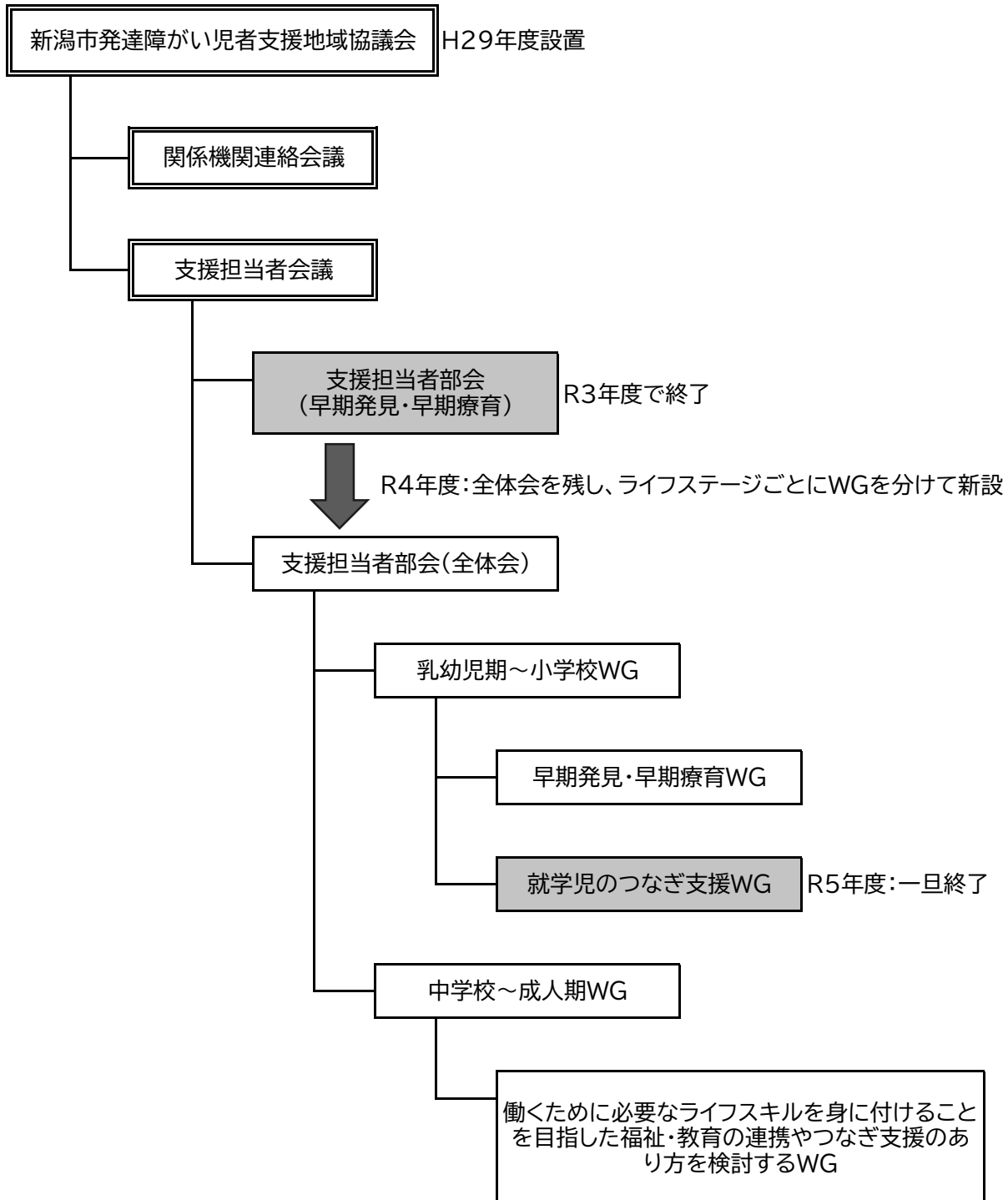


新潟市発達障がい児者支援地域協議会のこれまでの経緯

年 度	内 容
H27	協議会の前身となる「新潟市発達障がい児者支援機関連絡会議」を始動
H28	8月の発達障害者支援法改正により「発達障害者支援地域協議会」設置規定が設けられる
H29	連絡会議のメンバーや内容を見直し、地域の実情に応じた発達障がい児者の支援体制を協議する場として、「新潟市発達障がい児者支援地域協議会」を設置
R1 ～ R3	協議会は、「関係機関連絡会議」と「支援担当者会議」で構成され、支援担当者会議の中に「部会」を設置し、「早期発見・早期療育」について協議し、コアメンバー会議でライフステージごとのワーキンググループ(以下、「WG」。)設置の提案があり、「支援担当者部会」において協議の上、下記のとおり決定。 ● <u>支援担当者部会(早期発見・早期療育)はR3年度で一旦終了。</u> ● <u>支援担当者部会は全体会として残し、その下にWGを「乳幼児期～小学校」と「中学校～成人期」の2つのライフステージに分けて新たに設置。</u> ● 「乳幼児期～小学校」は、「<u>早期発見・早期療育ワーキング</u>」と「<u>就学時のつなぎ支援ワーキング</u>」の2つとする。「中学校～成人期」は、「<u>働くために必要なライフスキルを身に付けること</u>を目指した、<u>福祉・教育の連携やつなぎ支援のあり方を検討するワーキング</u>」を1つとする。 R4年度は、計3つのWGでスタート。 ● 各WGでの協議内容は、まずは事務局(JOIN)が課題と感じていることを案として提示し、「Q-SACCS」を用いて、市の制度、事業、会議、ツール等を分かる範囲でまとめ、分析し、課題と思われるものをいくつか挙げ、それを基に各WGにて検討する(中学校～成人期ワーキングではJOINが作成したQ-SACCSを活用していない)。 ※ Q-SACCS・・・令和3年度 厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業) 「地域特性に応じた発達障害児の多領域連携における支援体制整備に向けた研究」 (研究代表者:本田秀夫氏)により示された評価ツール
R4	○支援担当者部会 全体会(年2回、R4.8.2、R5.2.8) 各WGの委員が出席し、各WGから実施報告の上、意見交換 ○早期発見・早期療育グループ(年5回、単独3回・全体会2回) 『障がい福祉サービス事業所一園一保護者』の連携のための「幼児版連携シート」を作成し、R5年度にモデル的に実施の上、評価・修正を行うこととした。 ○就学時のつなぎ支援グループ(年3回、単独1回・全体会2回) 学福連携面では、教育側と福祉側の温度差が大きく、福祉側だけで検討していくことに限界があり、教育側への根回しやアプローチをしていくことが必須であるため、今回のWGではなかなか取り組むことが困難と判断し、R5年度は一旦ストップ。 ○中学生～成人期グループ(年3回、単独1回・全体会2回) 将来の社会的・職業的自立に向けて、基礎となるライフスキルを身につけるための支援のヒントになる手引書の作成を進めていくこととした。

年 度	内 容
R5	○関係機関連絡会議(R5.7.7) 主に支援担当者部会全体会及び各 WG の活動報告、R5年度の活動予定についての報告 ○支援担当者会議(R5.12.5) テーマ:ICT を活用した発達障がいの子どもたちへの学習支援 講師:新潟県はまぐみ小児療育センター 清水医師、 新潟市障がい者 ICT サポートセンター 山口管理責任者 ※ 支援担当者部会全体会、各 WG については諸事情(マンパワー不足により、運営体制及び様々な課題整理ができないため)により未開催。
R6	諸事情(マンパワー不足により、運営体制及び様々な課題整理ができないため)により、関係機関会議及び支援担当者会議、支援担当者部会全体会、各 WG など協議会に関することは開催できなかった。
R7	○関係機関連絡会議(第1回、R7.9.1) 関係機関連絡会議・支援担当者会議(1年間ストップ)、支援担当者部会および WG(2年間ストップ)の実施できなかった状況を踏まえ、これまで積み上げてきたことをどのように活かすか整理しつつ、今一度、協議会の在り方について再考が必要であることから、事務局としての方向性を示すため、書面開催にて課題・意見を集約した。 ○関係機関連絡会議(第2回、R7.11.26) 第1回関係機関連絡会議の結果報告を行い、今後の目標設定と運営体制の整理を行った。 目標設定 ① 幼児版連携シート:R9 年度運用を目指し、ブラッシュアップ ② Q-SACCS:様々な課題と併せて R8 年度中に落とし込む ③ 市版アクションプラン:Q-SACCS 等から課題を洗い出し、R10 年度完成を目指す 運営体制整理 市版アクションプラン作成のため、Q-SACCS での事業落とし込み及び課題の洗い出しが重要となるため、各 WG メンバーは基本、招集せず、必要に応じての招集とする。 ○支援担当者会議(R8.2.19) テーマ:発達障がいのある人と家族を支援するための地域支援体制づくりに向けた Q-SACCS 活用について 講師:信州大学医学部子どものこころの発達医学教室附属病院子どものこころの診療部長 長野県発達障がい情報・支援センター 本田秀夫センター長

新潟市発達障がい児者支援地域協議会 構成図



WG:ワーキンググループ

関係機関連絡会議:原則、年1回開催(要綱第5条3に規定)